

三浦市立三崎中学校

研究テーマ：自ら学ぶ生徒を育む～生徒のための授業づくり～

1 実践の目的

幅広く興味関心をもち、自分が気になったことや疑問に思ったことに対して、自ら学び、進んでいく生徒を育てたいという思いから、「自ら学ぶ生徒を育む」という研究テーマを設定した。

また、生徒のための授業になっているのか、生徒の心に火を点けられているか等、教職員一人ひとりが改めて授業を考えていくために、「生徒のための授業づくり」を副題とした。

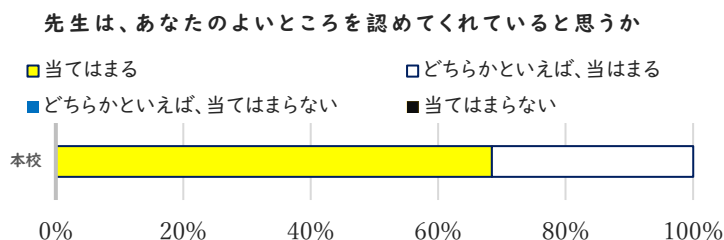
今年度は、3つの研究グループ（【授業研究】、【探究、学びへ向かう力】、【学ぶ力の確実な定着】）を編成し、それぞれの視点から「自ら学ぶ生徒」の育成に取り組んだ。

2 実践の内容

(1) 生徒の実態

i. 全国学力・学習状況調査から

今年度は、全国学力・学習状況調査の生徒質問の「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の回答では、肯定的な意見が100%となった。（当てはまると回答した生徒の割合も、全国平均を大きく上回った）



ii. 生徒が主役の学校づくり

生徒の成長をど真ん中に据えた教育活動を目指す中で、昨年度から、「授業では、先生から教わるのではない」と発信してきた。そうすることで、生徒が「自分で考える」、「自分で判断する」、「自分で行動する」、「自分で責任を取る」という考えが少しずつ定着し、習慣化されてきた。

今年度は4月の全校保護者会で学校長が、「考える」というキーワードを保護者に伝えたことを受け、教職員は生徒が判断することができる声かけを意識してきた。そして、生徒一人ひとりの居場所づくりに教職員それぞれの持ち味を活かしてチームとして取り組んだ結果、生徒が自身の存在を認められていると感じていることが多くなったと受け止めている。

(2) 実践内容

i. 授業研究 [三崎中学校が目指す授業]

本校では「生徒のための授業」の実現に向け、一昨年度に「三崎中学校が目指す授業」（下図参照）を、授業改善アドバイザーの三浦修一先生の助言を受けながらまとめた。

令和7年度 三崎中学校が目指す授業

1. 授業の主役は生徒のみなさん!
2. 「聞く力」を育てよう!
3. 「正解」だけで終わらないようにしよう!
4. 「自分の言葉」で伝えよう!
5. 多様な「学び方」を見つけよう!
6. 「考える力」を鍛えよう!
7. リフレクション=省察を大切にしよう!

教室掲示することで生徒との共有も図ってきた。

なお、今年度は新たに「4.『自分の言葉』で伝えよう」を追加するなど、「三崎中学校が目指す授業」をアップデートさせている。

ii. 単元デザインシート

本校では、単元デザインシートと呼ばれる単元ごとの学習計画、内容を生徒に示し、生徒と単元の学びを共有している。

生徒が単元デザインシートを見て、学習内容を教科担当に尋ねてくるなど、全教科で取り組むことで浸透してきている。

また、今年度は、単元デザインシートに、この単元で重点的に取り組む三崎中学校が目指す授業の項目を記載して、教職員が身に付けさせたい力を、生徒と共有できるようにした。



単元デザインシート

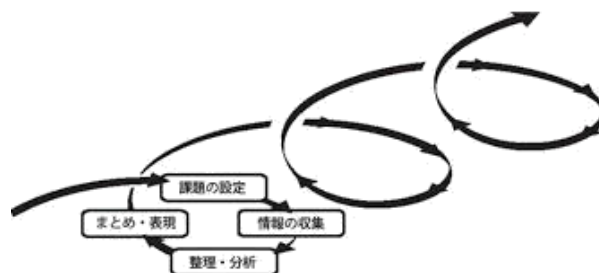
iii. 「探究」を自己の生き方を考える力に

総合的な学習の時間で行う探究学習は、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の4プロセスを発展的に繰り返すものであり、その課題解決の取組をとおして、自己の生き方を考える力を身に付けることが最終目標である。

しかし、本校のこれまでの総合的な学習の時間では、「郷土」「情報」「表現」「防災」「福祉」「キャリア」といったテーマのもと幅広く学習を行ってはいったものの、時間単

位のパッケージ化された授業、調べ学習にとどまり、探究学習に至ることが難しかった。そこで、昨年度から総合的な学習の時間を校内研究の対象とし、次の2点を確認した。

- ① 「探究課題」はそれぞれ別のものであっても、学ぶこと・学ばせたいこと(=テーマ)は同一。
- ② 探究サイクルを意識し、サイクルを年間で最低2周させる。



探求的な学習における生徒の学習の姿

- ③ 3年生修学旅行との関連では、次のように位置づけた。

① テーマ

「奈良の人々の営み」「自然」「歴史」「食文化」といったジャンルの中で、生徒が「探究課題」を設定。

② 2つのサイクル

1サイクル目：2年時に教員の特別授業等をもとに探究課題を設定。その後、情報収集、整理・分析を経て、6月に行動計画をプレゼン(まとめ・表現)。

2サイクル目：帰校後、学んだことを整理し下級生に伝える。

年度後半は、テーマ「奈良の人々の営み」を、「三浦の人々の営み」に転換し、郷土三浦への想い、願いの課題を解決する取組を通して自己の生き方を考える力を身に付けさせることをねらった活動を行った。

iv. 学ぶ力の確実な定着 スモールステップ・反復
今年度初め、学ぶ力を定着させるために、スモールステップを授業者が意識して、粘り強く取り組ませていくことを教職員で共有した。また、知識及び技能を定着させるために、「書く」こと、オンライン学習サービス等のツールも活用して「反復」していくことを各教科で実践してきた。「反復」に関して、小テスト等に臨むための学習方法の提示や自主学習用のプリントを作成する等、目の前の生徒に応じた指導を行った。

v. T・Tから少人数へ

数学の「T・Tの授業」では、個に応じた支援を行ってきたものの、全体指導の中で授業についていくことが難しい生徒の姿も見られた。

そこで、「T・Tでの授業は生徒のための授業になっているのか」、「今の授業は生徒の学習ニーズに合っているのか」ということを考え、2学年の数学では少人数授業を実践してきた。少人数授業では、授業者は一人ひとりの生徒を丁寧に見取り、個別のつまずきに応じた指導ができています。生徒からは、「〇〇さんの説明わかりやすい」、「ずっと少人数がいい」という声が聞かれ、生徒の学習ニーズに応じた取組ができています。また、授業の進捗状況については、単元ごとの板書計画をオンラインストレージで共有しており、生徒も安心して学習に取り組んでいる。

3 実践の成果と課題

i. 授業研究 [三崎中学校が目指す授業]

生徒アンケートには、「人の意見を積極的に取り入れることができた」、「自己流の覚え方を考えた」などの記述があり、生徒も意識している様子がうかがえた。

ii. 単元デザインシート

生徒が単元デザインシートを見て、学習内容を教科担当に尋ねてくるなど、全教科で取り組むことで浸透してきている。

iii. 探究学習

総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力及び3年間の学習内容を整理したことで、担当教職員だけでなく、総合的な学習の時間を受け持つ担任全員で共通認識をもち、探究的な学習がより深められた。

iv. 学ぶ力の確実な定着 スモールステップ・反復

数学科では、小テストでB基準に達していない生徒を対象に、別日に再テストを実施して、生徒の知識及び技能の定着に向けて取り組んだ。間違えたところを解き直すなど、理解を深めて再テストに臨む生徒が多かった。しかしながら、全国学力・学習状況調査の分析では、【知識・技能の定着】や【自分の考えを記述し説明する力】に課題が見られた。知識及び技能については、長年の課題でもあるため、学ぶ力を確実に定着させるための効果的な取組の必要性を感じている。

v. 少人数授業

学習の理解度を把握するために小テストも実施しているが、単元の学習内容の定着が十分に図れているのか、これまでの学習の積み上げに効果的に働いているのかについて常に検証していく必要がある。

4 今後の展開

授業研究については継続して行っていく。

『探究学習』と『授業の形態』を学校研究に位置付けたことで、本校の課題について、解決に向けた推進がなされた。これら2点についても、さらに充実したものになるよう手立てを探っていきたい。